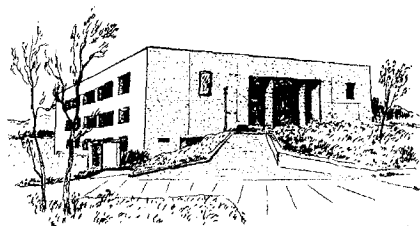


福島大学附属図書館報

書 燈



No.31

2003. 10. 1 発行

〒960-1293 福島市金谷川1番地

TEL (024) 548-8083

http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/

福島大学附属図書館

菩薩の心腸

澁澤 尚

「彼が書物を愛する理由は、それが書物であるから」とは、G.フローベールが学術の頃に、スペインの怪僧ドン・ヴィンセンテの盗書事件を下敷きにした『愛書狂』の主人公、ジャコモ描写の一節です。これは、書物をソフトウェアとしてのみ捉えているむきには少々難解な問答になるでしょうが、書物のハードとしての面にこそ異様な興奮を覚える、書名どおりの愛書狂、“Bibliomanie”にはいかにも合点のいく一言であろうと思います。

私自身は、たまさか木活鉛活の凹凸を指でなぞって、酔余ぼつねんと心を落ちつかせることはあっても、なにも貴書珍籍を蒐集する書痴である、などというつもりはごうもありません。それは、書痴を意味する「蠹毒」という、いかめしく、なにやら不治の病を思わせる漢語を知り、またそれに罹患し、時には一書に一命を捧げた古人の事蹟をあまた聞きかじってもいるからで、私にはそんな深刻な末路を予見させる、少なくとも自覚症状はないのです。

蠹とは蠹魚、すなわち本をむしばむ紙魚のこと。中国周代の礼制に仮託した経書『周礼』には「蠹物を除くを掌る」翦氏なる専門官が想定されていて、

いにしえ蠹害は由々しき事態であったことがわかります。これらの語は、現代のように紙魚も喰いあぐる洋紙の平べったい非活版書物が大半を占めれば、いずれ雅な時代を郷愁をもって語るに用いられる以外には、曝書（本の虫干し）などということばとともに一括して死語になるのでしょうか。いわんや増大する電子化された「ショモツ」にはまったく不釣り合いなものです。

さて、ややもすると陰湿なひびきをもちかねないジブリオマニアや蠹毒なぞよりも、“本好き”くらいが健康的でよろしいのでしょうか、いやしくも書物と向きあう時間の多いであろう大学生であるならば、我劣らじと書物、さらにその宝庫である図書館とつき合いたいものです。私は、飲みしろ以外は削っても本は無理して自分で購う主義なので、実のところ図書館に対し冷淡な方だと自認しています。それでも、ときおり図書館の本がぞんざいに扱われている



目 次

- ・ 巻頭言 菩薩の心腸 ……………澁澤 尚 (1)
- ・ 思い出の一冊 「子午線の祀り」…笠井 博則 (2)
- ・ 留学生から見たカナダ・ビクトリア大学図書館の謎
……………新関 剛史 (3)
- ・ カナダ・ビクトリア大学を訪ねて
海外研修報告 ……………芦原ひろみ (4)
- ・ One for all, All for one!
カウンターの内側から…加藤与志輝 (5)
- ・ 学内教官著作寄贈図書を紹介
「非行臨床の焦点」……………生島 浩 (6)
- ・ 「社会調査論研究室年報」……………今西 一男
- ・ 「人事労務管理の歴史分析」……………熊沢 透
- ・ メタデータって何? ……………情報管理係 (7)
- ・ 第34回国立大学図書館東北地区協議会総会 (7)
- ・ その昔 福島大学の近くにあった図書館(その2)
「松川町議会図書室」……………渡辺 武房 (8)
- ・ 利用者アンケート集計結果について…小椋 正行
- ・ 利用者アンケート集計結果報告
ダイジェスト版 …………… (9)
- ・ 図書館利用者協議会開催される …………… (44)

(2)

痕跡を目のあたりにすると、嗟嘆ひとしきり、なんとも悲しくなります。レポートか何かで利用したのでしょうか、手沢に値しない無意味な書込や傍線、頁の折りに気付くにつけ、他人のものを傷つけている云々よりも、この人にとって書物は情報を切り取るソフトウェアでしかないのだ、という一点のみで暗然となるのです。いくらデジタル化が進行している時代とはいえ、紙の書物を大切にすることは是非とも残したいものです。それは自分の専攻する学問に対する姿勢にもつながると信じています。

書物の体裁や外観にばかり眩惑されたジャコモになるのは薦めません。しかし、閑ある学生時代、

ハードとしての本の魅力にも少しく毒され、ひがな一日図書館を逍遥しつつ自分なりの、いわゆる“ideal book”（理想の書物）を探す、また韋編絶たれた片隅の古書に慈愛の目を向ける、そんな贅沢な時間を過ごすのもさほど悪いものではない、と思っています。清代の文人、張潮は『幽夢影』において次のごとき僞語を吐きました。

「月の為に雲を憂え、書の為に蠹を憂うは、真に是れ菩薩の心腸なり」(月が雲に遮られるのを哀れと思ひ、書物が紙魚に蝕われるのを哀れと思うのは、まことに菩薩の慈悲心というべきものである)。

(教育学部助教授)

思い出の一冊

思い出の一冊

思い出の一冊

『子午線の祀り』 木下順二 作 河出文庫 1990

笠井 博則

ある本をきっかけに、ある方向に進んだとなれば感動的なお話になるのですが、残念なことに学生当時によく読んだ小説などとまったく違う方向で研究者になってしまったので（私は今、数学の研究者）、そのようなストーリーは語れません。

と、いうことでここではいまだに趣味にしている観劇のきっかけになった本を紹介します。

この本は、戯曲です。有名な昔話「鶴の恩返し」を戯曲化した作品「夕鶴」の作者、木下順二の作品です。平家物語を題材に、一の谷の合戦から壇ノ浦の戦いまでが、新中納言知盛と九郎判官義経を中心に語られています。

初めて読んだのは中学生のとき。それまで戯曲は

「台詞が書いてあるだけの無味乾燥なもので読んでどうするのだ。」と思っていたのですが、そのころテレビで若手の舞台作家兼演出家というのをみてお芝居に興味をおぼえ、図書館の演劇コーナーに立ち寄りしました。そのとき、ふと作者の名前に見覚えがあるこの本を見つけて手に取りました。

源平合戦なんてありふれているしつまらないと思うかもしれませんが、この本の一番印象的なところは幕の合間の詞(ことば)。星の運行のように、時代の流れが機械仕掛けのつくりものより厳然と動いていくことを簡潔な言葉で印象付けていきます。この戯曲は滅び行く平氏と後に滅びることになる義経の物語であると同時に、宇宙の摂理の物

語です。戯曲も感情移入して読めるのだという発見。これがひとつのきっかけとなって、大学生になるまではいろんな戯曲を読みました。

授業に追われなくなってから（楽しい研究の日々(?)）は、数少ない趣味としてお芝居にずいぶんお金を注ぎました。（立派な劇場で観るとお芝居は高いです。）客席にすわって暗闇から舞台を眺めているとき大音量とライトに当てられた役者の声・動きは別世界のように感じます。（いいお芝居を観るのは楽しいです。）

「大空に跨って眼には見えぬその天の子午線が虚空に描く大円を三八万四四〇〇キロのかなた、角速度毎時十四度三〇分で月がいま通過するとき月の引力は、あなたの足の裏がいま踏む地表に最も強く作用する。

そのときその足の裏の踏む地表がもし海面であれば、あたりの水はその地点へ向かって引き寄せられやがて盛り上がり、やがてみなぎりわたって満々とひろがりひろがる満ち潮の海面に、あなたはすっと立っている。」(本文より)

戯曲の中の人物たちに、自分の感じた抑揚で感情で物語を台詞を語らせてみませんか？ 戯曲を読みはじめた瞬間からそのお芝居の演出家はあなたです。音楽やライティング、役者の動き。小説にはない、自由があなたには与えられています。ぜひ一度（気分転換として・日常生活の送れる範囲で(?)）お楽しみください。

(教育学部助教授)



思い出の一冊

思い出の一冊

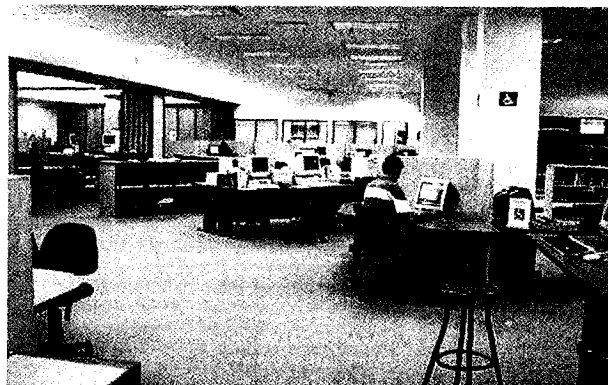
留学生から見た

カナダ・ビクトリア大学図書館の謎

経済学部 4年 新聞 剛史

私は平成14年度経済学部交換留学生として、10カ月間カナダのビクトリア大学 (University of Victoria) というところに留学していました。大学のあるビクトリアはカナダ西海岸のバンクーバー島という島の南端に位置していました。島ということで自然は豊かで気候も温暖、住民はほとんど高齢者か学生ということで、学問に励む場所としては最高のところだと思います。ご存知の方も多いかと思いますが (実は私は留学するまで知りませんでした)…、カナダは昔イギリスとフランスに占領されていました。フランスに占領されていた地域は現在のケベック州となり、フランス語が公用語として話されていることは有名だと思います。その一方で、ビクトリアはイギリス軍によって支配されていたので、町並みや英語もイギリスの影響を強く受けた町と言えます。しかし、私がカナダに到着して2日目の7月1日はカナダの日 (Canada Day) でたくさんの人がカナダの国旗とともに歩いているのを思い出すと、現在は愛国心あふれる多くのカナダ国民によって成り立っている一国家なんだなという思いを感じさせます。

さて、そろそろ本題の図書館事情に入りましょう。私は9月からの正式入学に備え、早めに留学して2カ月間ビクトリア大学付属のESL (語学学校) で英語を勉強していたのですが、大学図書館との出会いを果たしたのはその頃です。ESLのあるクラスで、Library Test (図書館テスト) という課題が出されました。先生の話によれば、ビクトリア大学の全学生 (ESL生も含む) はそのテストで90点以上取らないと図書館での貸し出しは一切認められないということでした。海外にはそんなシステムがあるんですね。純粋な私はとりあえずテスト勉強に励みました。内容は本の背表紙についている検索ナンバーの読み方だとか本や雑誌の検索方法などなど。日本にいた頃、図書館を利用することはあっても本を借りたことが皆無に近い私にとってはなかなか難しいものがあり、3度の受験でようやくパスすることができました。ところがこのテスト、後々友達のカナダ



人に聞いてみたところ、テストの存在すら知らないということです。うーむ…。これはLibrary Testと見せかけて、実は単なるESL用の英語テストだったのではないのでしょうか。そういえば、出てきた単語もESLで習ったばかりのものが多かったような……。謎です。

図書館についてはもう一つ面白い話があります。Canadian Business Environment (カナダビジネス事情) という授業をとっていた時のことです。レポートの課題が出たため、私は参考文献として5冊の本を借りていました。無事レポートも完成して気が緩んでいたのか、うっかり本を返却するのを忘れてしまっていたのです。結局1週間ほど返すのが遅れてしまったのですが、その罰金がなんと80カナダドル (日本円で約6,400円) !! 北米の大学では返却が遅れるとペナルティとして罰金があることは知っていましたが、こんなにも高いものだったとは!と気がついたのもあとの祭り。渋々財布を取り出してお金を支払おうとしたその時、「君は初めてのペナルティだから24ドルでいいよ。」と図書館員さん。なんていい人でしょう! 私が30ドルを払うと、彼はピピッと慣れた手つきでレジから6ドルのお釣りをくれました。そう、図書館のカウンターにはレジがあるんですね。コンビニみたいで奇妙な光景です。それにしても今考えると、彼にディスカウントする権限があったのか、そしてなぜ24ドルだったのか……。謎です。

カナダ・ビクトリア大学を訪ねて

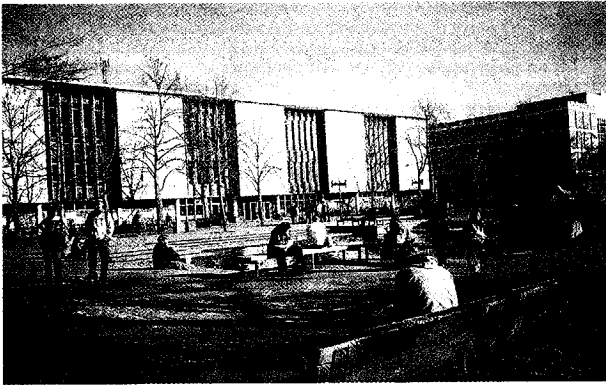
～海外研修報告～

総務係 芦原 ひろみ

カナダというと、「寒い」というイメージはないでしょうか？ もちろん寒いところはとてつもなく寒いと思うのですが、カナダ西海岸のバンクーバー島にあるビクトリアは、カナダの中では比較的温暖な地方で、私たちが訪れた2月下旬は、福島よりも暖かく感じられました。この度、今年の2月24・25日の2日間にわたって、学術振興基金と学長裁量経費により、福島大学の各部局の職員5名と共にビクトリア大学を訪れる機会を得ました。

馬車が走り、英国の雰囲気漂うこのビクトリアに、福島大学と協定を結んでいるビクトリア大学があります。広々とした敷地には緑も多く、あちこちでウサギを見かけるほのぼのとした環境でした。

ビクトリア大学は学生数18,000人、10の学部を持つ、カナダでは中規模の総合大学です。また、留学生の受け入れなども積極的に行っている国際的な大学でもあります。図書館については、中央館であるMcPherson Libraryの方々に話を聞き、館内を見学することができました。



〈McPherson Library〉

McPherson Libraryは大学のほぼ中央にあります。図書約160万冊、マイクロ資料170万点、レコード・CD・ビデオなどの視聴覚資料約5万点を所蔵しており、地上4階、地下1階の建物にこれらの資料が収納されています。図書館の前には噴水のある広場があり、ここは学生たちの憩いの場になっているようで、読書をしたり、話をしたり、踊っていたりとそれぞれの時間を過ごしていました。



〈館内の様子〉

ゲートを通して図書館内に入ると、左手に貸し出しカウンターがあり、正面にはレファレンスカウンターが2つ、その周りには広々としたスペースにコンピュータが並び、そして奥には書架が広がっています。1Fにはこの他にカレント雑誌や新聞のスペース、また、リザーブ室（各講座で読ませる教科書以外の資料がおいてある場所）などがあります。図書とカレント以外の雑誌は、全て請求番号が付けられ、その順番で各フロアにわたって配架されており、利用者は図書・雑誌の区別なく資料にあたるようになっています。さらに、地下にはマイクロ資料室・音楽関係の資料室・Special collectionなどといった部屋がありました。どの部屋も自由に入ることができ、それぞれ職員がいて利用者に対応しているようです。また、館内のいたるところに絵が飾られているのが印象的でした。

密かに衝撃を受けたのは、McPherson Libraryで働く人の数です。なんと、200人以上の人が働いているとのこと。その内訳は、司書25人、常勤司書補約80人、アルバイト約100人のようですが、福島大学附属図書館の人数の10倍近い人数ということになります。

この人数の多さのおかげでもあるのでしょうか（そればかりではないと思いますが）、司書の25人は専門性の高い仕事に従事しているようです。具体的には、①選書、②書誌の新規作成、③レファレンス、の3つを行うということでした。また、分野を50ほどに分け、司書の各人がそのうちの3～4つを担当

して選書やレファレンスを行っているようです。司書の専門性が高く認められており、司書自身も強い自覚と責任を持ってサービスを行っているように感じられました。特定の分野を担当するという一方で、常にその分野に対する知識を深めることも求められていると思われま

では、このように担当の分野を抱えている司書はどのように能力の向上を図っているのかというと、主に各々の所属する図書館協会や担当分野の学会等の総会、講習などに自分で出かけていくようです(研究費の特典あり)。また、今年から専門分野の参考資料などを同僚同士で教えあうセミナーも開始しているとのことでした。

福島大学附属図書館においても、これから図書館内における学習会を予定していますが、自らの知識を高める努力をしていかななくてはと感じています(個人的には英語の能力もですが……)。

今回の訪問では、海外の大学図書館をみるという

機会を得ることができ、司書の専門性などについて改めて考えさせられ、本当によい経験になりました。

この訪問で見聞きしたことで自分の考えを広げて、これからの仕事に役立てていきたいと思



“One for all, All for one!” — カウンター — の内側から

加藤 与志輝

カウンター業務に就いて早2年目になります。附属図書館には、毎日多くの方がそれぞれの目的のために来館しています。“図書閲覧”、“試験勉強”、はたまた“音楽鑑賞やビデオ鑑賞”等々、まさに十人十色の利用法です。多様なニーズに対応するため、附属図書館には様々な施設・設備が備わっています。最近では、ネットを通じて手軽に本の予約等が行えるようになり、利用ツールもさらに拡大しました。改めて、附属図書館の充実した機能や対応の柔軟性に驚かされます。

さて、利用者の多くは、目的意識をもって来館されていることと思います。しかし、その傍らで開架閲覧室内での“ヒソヒソ話”に花を咲かせる方も若干見受けられます。静かな学習環境を望んで来館する方が多いなかで、この“ヒソヒソ話”は結構耳障りに感じてしまうものです。利用者アンケートに「話し声がうるさい」等の回答が寄せられているのも事実です。映画の上映中に携帯電話が鳴り響くの

を不快に感じるように、近くで話をされたら学習になかなか集中できません。公共の場を利用する際には、その場に応じた守るべき“マナー”があります。附属図書館には会話や軽食等を楽しめるコーナーもありますから、話をしたいときはそちらで憩いのひとときをお過ごしすることをお勧めします。

最後に、附属図書館に限ったことではありませんが、お互いのためにマナーを守って施設を利用することこそ、お互いが“快適な空間”を獲得することに繋がるのだと思います。これからもマナーを守りつつ、附属図書館という“知の宝庫”を快適に、そして、有効に活用していきましょう。

(教育学研究科2年)



学内教官著作寄贈図書を紹介

非行臨床の焦点

生島 浩 著



生島 浩

中学生等年少少年による衝撃的な犯罪が頻発している。2001年から施行されている新しい少年法のもとでの非行臨床現場の現状と実践課題に焦点を当て、非行臨床の専門性確立のための視点を提供する大学でのテキストとして本書を執筆した。非行少年の社会復帰を担う保護観察官と

『非行臨床の焦点』

金剛出版 2003.04

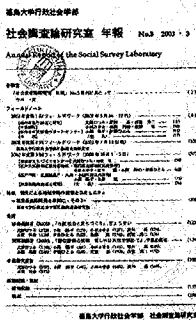
生島 浩 著

(教育学部教授)

中学生等年少少年による衝撃的な犯罪が頻発している。2001年から施行されている新しい少年法のもとでの非行臨床現場の現状と

しての経験を踏まえて、具体的な事例をもとに少年たちの立ち直りへのより有効な道筋を探求している。

問題を抱えた少年のみならず、その家族へのサポート、少年が矯正施設から出てきてから生活する地域社会への援助、さらには犯罪被害者への社会支援も必要不可欠であり、それらへの心理社会的援助の実際と問題点を詳述した。学生・院生に加えて現職教員などに非行臨床の最新の知見を示すとともに、この世界へ有力な新人を獲得したいという欲張った思いが筆者にある。非行に限らず問題を抱えた子どもたちとその家族の援助に関心を持つ多くの人に是非一読してもらいたい。(請求番号368.7/Sh96h)



『社会調査論研究室 年報』

同研究室編集・発行 2003.03

担当教官：今西一男

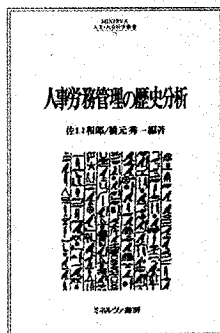
(行政社会学部助教授)

2000年4月の着任以来、私が担当する演習(社会調査論)＝社会調査論研究室では、毎年度の研究・調査の成果を『年報』としてまとめている。社会調査は結果の公表までを行う一連の過程であるということ、そして相当の時間を費やして活動してきた学生たちの思いをかたちに残したいということの2点から発行を続けている。

去る4月でNo.3を発行したが、この間の一貫した研究課題は「開発による地域空間の変容とコミュニティ」である。この課題を基軸に行う都市開発の現場での調査結果をまとめた「フィールドノート」、調査票調査等も用いて開発問題を考察する「特集」、関連する文献を読んでの「書評」など、学生たちによる多様な考察を掲載している。また、2年間をかけて「まちづくり」との接点で書き上げる卒業研究の要旨も所収している。

今回、『書燈』に紙幅を与えられたことは研究室にとって大きな励みになる。さらにこの『年報』をご覧いただき、研究室の研究・調査そして教育にご意見いただければ幸甚である。

2000年4月の着任以来、私が担当する演習(社会調査論)＝社会調査論研究室では、毎年度の研究・調査の成果を『年報』としてまとめている。社会調査は結果の公表までを行う一連の過程であるということ、そして相当の時間を費やして活動してきた学生たちの思いをかたちに残したいということの2点から発行を続けている。



『人事労務管理の歴史分析』

ミネルヴァ書房 2003.03

熊沢 透(経済学部助教授)

今日の経済社会に対して検討のメスを入れようと試みたとき、私たちはどのような方法を探りうるでしょうか。「労働問題・労使関係」を準備範囲とする私たちは「戦後日の人事労務管理の展開過程を、諸制度の相互の連関に留意しながら、主に1950年代から60年代に焦点を当てて総合的に解明すること(序章)」を通じて、現在の労働関係を歴史的に相対化することを目指しました。

問題関心は、システムに溶かし込まれた各主体の「理念」・「思想」・「公正観」といったものを析出し、その展開を「制度」生成のダイナミズムのなかに然るべく位置づけることで、戦後労働史・労務管理史を再構成しよう、ということです。テーマに即していいかえれば、「日本的雇用慣行」と呼ばれるものを、単に目的合理的な手段の体系としてではなく、各主体合作の歴史的構成体として捉え直してみようというわけです。

事例分析に力点が置かれているため、迂遠で些末な叙述が続くように思われるかもしれませんが、しかし、これはまだまだ「前提的作業」です。多様な分野の学究諸氏に対していささかでも有益な示唆と含意あれかしと思います。

今日の経済社会に対して検討のメスを入れようと試みたとき、私たちはどのような方法を探りうるでしょうか。「労働問題・労使関係」を準備範囲とする私たちは「戦後日の人事労務管理の展開過程を、諸制度の相互の連関に留意しながら、主に1950年代から60年代に焦点を当てて総合的に解明すること(序章)」を通じて、現在の労働関係を歴史的に相対化することを目指しました。

この本に結実した研究会において共有されている

(請求番号336.4/Sa16j)

メタデータって何？

情報管理係

近年インターネットの普及により、ホームページから情報を得たり情報を発信したりするケースは珍しくなくなりました。ところで皆さんはYahoo!やgoogleなどの検索エンジンを利用したことがあると思いますが、ヒットした情報に無駄が多く、有用な情報を特定するのに苦労した経験はありませんか？ これらの検索エンジンはホームページのカテゴリや単語だけを機械的に検索語として作成して検索しており、ホームページの内容を詳しく反映して検索しているわけではないため、深く特定の情報を探すには不向きといえます。

国立情報学研究所(Nii)では、学術情報が多様なメディアやネットワークを介して多量に流通している状況を踏まえ、平成14年10月より「メタデータ・データベース共同構築事業」の運用を開始しています。この事業は各大学等が発信するネット上の学術情報資源の情報(データのデータ=「メタデータ」)のデータベース化と公開サービスを実施することにより、学術情報を利用しやすく整理し、各大学の研究成果を広く世界に発信することを支援するものです。集積されたデータはNiiの学術コンテンツポータル

「GeNii(ジーニイ)」(<http://ge.nii.ac.jp/>)を通じて利用者に提供されます。

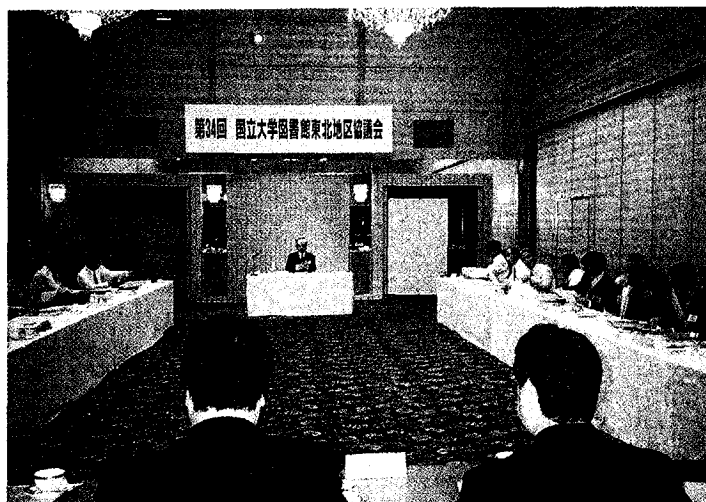
「メタデータ」とはネット上の情報を定められた記述要素で記録したデータのことで、いわばネット上の情報の目録ともいえます。私たち情報管理係では図書館の各種資料についてデータ(タイトル、著者、出版社、分類法による分野の特定などの情報)を登録することによって、様々な検索に対応できるように目録整理業務をしています。同様の作業をネット上の情報についても行おうというわけです。このメタデータ作成の対象となるのは、各大学等がネット上に発信する研究成果、研究者情報、広報情報などです。

本学でのメタデータ作成は情報管理係が担当することになりました。今度中にデータベース収録の対象となる本学のサイトを選別し、メタデータ作成および登録の作業に着手する予定です。

今後ネット上で流通する情報は一層増えていくことと思われます。印刷物などのように、ネット上の情報を整理し、提供していくサービスも図書館の重要な役割となります。

第34回国立大学図書館東北地区協議会総会

第34回国立大学図書館東北地区協議会総会が、4月24日本学を当番校として福島市内で開催されました。同協議会総会には、東北地区7国立大学の附属図書館の館長、事務(部長)等が出席し、地区連絡館の東北大学から、前年度の国立大学図書館協議会等の活動内容の報告を受けるとともに、国立大学法人化に向けての附属図書館の取り組み状況、法人化後の本協議会のあり方、学内学術情報へのメタデータ付与体制等についての各大学の取り組みの現状や課題等について、活発な情報交換、意見交換が行われました。



(8)

その昔 福島大学の近くにあった図書館（その2） 松川町議会図書室

渡辺 武房

1961（昭和36）年3月、議会の調査研究に資するため、地方自治法に基づいて、福島県信夫郡松川町役場2階（現福島市松川支所）に設置した県内最初の町議会図書室です。

これは松川町議会が1960年の秋、新庁舎の完成を機会に県下町村に先駆けて議会図書室を作ろうと計画し、同議会文教委員会（委員長：服部童村）が中心となって検討した結果、同年12月の定例議会で設置を決め、議会図書室運営規定などを定めて開室したものです。

法律、一般教養書150余冊を揃えて開室しましたが、その後充実を図り、12月までには紀行文、自然科学書、行政資料、町の予算・決算書なども備え約700冊となりました。一般町民にも開放して教養、知識の向上に役立て、1961年度には123人の利用者がありました。1965年10月には松川町町議会事務局が蔵書目録（約1,000冊）を作成しました。

1966年6月1日、松川町が福島市に合併された後、

図書は松川公民館（一部は水原出張所）に移され、現在は福島市立図書館の蔵書として登

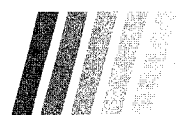
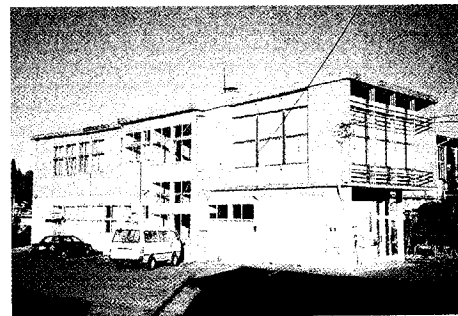
録されています（一部未登録あり）。議事録は合併前1年間分は福島市議会事務局にあり、それ以前のもは福島市松川支所にあります。

委員長だった服部童村（1909.8-）は松川町水原の農民歌人で、代表作に『山太郎』（造型社、1952）があります。

（参考資料）

- ・「初の町議会図書室」（1961.4.1付『福島民報』）
- ・「松川町議会図書室について」

（福島市蓬萊学習センター 1998.12 調査・回答）



利用者アンケート集計結果について

専門員 小椋正行

附属図書館では自己点検・評価活動を行うため、その基礎資料を得ることを目的として利用者アンケートを教官対象に平成14年9月2日～24日、学生対象に10月1日～21日の期間で実施した。

アンケートの回収は全体で712名（学部学生・大学院学生598名、教官104名、その他10名）であった。回収率は14.4%である。アンケートは図書館内において実施したため、回答者は主に図書館を利用している利用者が中心であったと考えられ、自由記述欄には多種多様な意見が出された。

集計作業にはアンケート分析ソフトを使用している。学生から出された意見も学部毎によって内容に違いがあり、特に夜間主生の声が見えるようにした。さらに教官から出された意見をも含め、身分毎の要望として多様な角度から分析できるようにするためである。

アンケートに出された意見を見ると利用環境とし

て開館時間の延長、日曜・休日開館を求める声が多く、図書館資料では開架図書について新刊書が少ない、内容が古いといった不満が目立っている。さらに、施設面では館内の照明をもっと明るく、閲覧机には照明器具設置の要望、閲覧室での話し声などの雑音が気になるとの声が出ていた。また、パソコンに対する要望も多かった。一方、インターネットはよく利用されているが、本館で提供するネットワークを利用した各種のツール、サービスの認知度が低く、利用されていない現状も確認できた。

アンケートに出された意見は今後利用サービスの改善として検討していく予定である。

アンケートの結果は『利用者アンケート集計結果』として図書館内ロビーなどに備え付けてある。また、集計結果の「ダイジェスト版」として本号に掲載した。多くの学生諸君に日を通していただきたいと思う。

(44)

貸出記録がないのに、開架、閉架どちらにもなく、直接職員の方に探して頂いても見つからなかった事があったのですが、掲示板で、もし持ち帰った人がいるなら返却するよう呼びかけ等を行ってほしい。蔵書検索の備考欄に「現在所在不明」とでも入れてくださると、無駄にさがすこともなくて更に良いのですが。

10代レベルの英語で書かれた本コーナーを設けてほしい。ナウカ、丸善、紀伊国屋の洋書の値段はあまりに高く、研究費を浪費している気がします。

消耗品的な図書（パソコンソフトのマニュアル、教材用図書など）は図書館を通さず個人研究費で買えるようにしてほしい。

トピック

図書館利用者協議会開催される!!

さる、7月28日(月)に図書館利用者協議会が開催されました。今回の協議会は、昨年9月～10月にかけて実施した利用者アンケートの結果をもとに、さらに利用者からの要望・意見等をうかがうために開催したものです。出席委員は、学生・院生4名、教官2名、職員4名及び図書館長の11名でした。

会議では、開館時間・開館日、利用環境、情報機器など図書館サービス全般についての要望等が出され、開館時間については、夜10時までの延長に賛成する発言が複数ありました。また、利用環境面では、携帯電話のマナー問題についての対応策（利用スペースの確保について検討）、席取り防止策（閲覧机に張り紙をする）の必要性、1人用閲覧機の増加、新刊本の充実等の要望が出され、利用者アンケートの結果とともに今後の図書館サービスの充実に向けて活かしていくことが確認されました。

この利用者協議会は、利用者からの生の声を聞き、図書館の利用改善に向けた取り組みをおこなっていくうえで非常に意義あるものとして、今後とも引き続き開催していく予定です。

総務係

